

大鳥井山遺跡の国史跡指定答申について

平成21年11月20日(金)に開催された文化財保護審議会の審議・議決を経て、大鳥井山遺跡の指定について文部科学大臣に答申しました。この答申に基づき、近日中に行われる官報告示を経て正式に追加指定された場合、秋田県の史跡指定件数は13件となり、横手市では初指定となります。

史跡大鳥井山遺跡の指定(文化審議会資料より)

- 1 指定等の対象名称 大鳥井山遺跡
- 2 指定対象の所在地 秋田県横手市大鳥町84番地 外131筆
- 3 指定対象地の面積 85,259.25㎡
- 4 指定基準 史跡の部 二(都城跡、国郡庁跡、城跡、官公庁、戦跡その他政治に関する遺跡)
- 5 説明

大鳥井山遺跡は、横手市街地北部に位置する10世紀後半～11世紀末までの居館跡である。遺跡は、西・南・北を川に囲まれた独立丘陵の小吉山と大鳥井山に立地する。前九年合戦の経過を述べた『陸奥話記』には、安倍正任が「初め出羽の(清原)光頼が子、字は大鳥山太郎頼遠の許に隠る」という記述がある。地元では、この「大鳥山」は現在の大鳥井山周辺のこと、清原光頼・頼遠父子の根拠地であったと認識されている。

遺跡の発掘調査は、横手市教育委員会がこれまで11回実施しており、周囲を大規模な二重の空堀により区画する防御性の高い居館跡であることが判明している。小吉山は地形や大溝によって4地区に分かれ、居館の主体とみられる北側の区画をはじめ、各地区で複数の建物跡(掘立柱建物跡)が見つかっている。大鳥井山は2地区に分かれ、横手川に面した平場で周囲に庇の付いた規模の大きい建物跡(掘立柱建物跡)が見つかっている。また出土遺物の大部分を占めるロクロ土師器は、10世紀後半から11世紀末のもので、前九年合戦・後三年合戦の年代に符号する。

このように大鳥井山遺跡は、居館の具体的な内容が把握され、特に大鳥井山ではその様相が良好に保存されている。また前九年合戦・後三年合戦の内容を記した文献に現れる清原氏に関連する遺跡の内容が具体的に知られる貴重な例である。

大鳥井山遺跡の時代のできごと

- 永承六年(1051) 秋田城介平繁成と陸奥守藤原登任とが安倍頼良を攻めるが、鬼切部で敗れる。**(前九年合戦始まる。)**
永承六年(1051) 源頼義を陸奥守に任命。
天喜元年(1053) 源頼義、鎮守府將軍を兼任。
天喜四年(1056) ①阿久利川事件。(前九年合戦が本格化)②平永衡が源頼義に殺害され、藤原経清が安倍氏側に走る。
天喜五年(1057) ①安倍頼時、安倍富忠と戦って負傷、鳥海柵に退却し死去。②11月:源頼義、黄海で安倍貞任らに大敗。
③源頼義、**出羽山北俘囚主、清原真人光頼(大鳥井山遺跡)**・舎弟武則に官軍に味方するよう要請。
康平五年(1062) ①7月:清原武則、一門と兵1万余人を率いて陸奥国に入る。②8月:小松柵での戦いで武則配下の深江是則・大伴員季らの活躍によって勝利。③9月6日:源頼義・清原武則らが安倍貞任らの衣川関を攻撃。
④9月11日:源頼義・清原武則らが鳥海柵を攻撃。藤原経清・安倍宗任らは厨川柵に逃亡。⑤9月14～17日:安倍貞任ら、厨川の合戦で敗北し、安倍正任らは**出羽国、大鳥山太郎頼遠(大鳥井山遺跡)**のもとに逃亡する。⑥9月:安倍宗任ら投稿する。**(前九年合戦終わる。)**
康平六年(1063) ①2月27日:清原武則、鎮守府將軍に任じられる。②5月:安倍正任、出羽国守源齊頼ら**在所(大鳥井山遺跡)**を囲んでいるうちに狄地に逃げたが、出頭する。
延久二年(1070) ①陸奥守源頼俊、清原貞衡ら、衣曾別嶋・閉伊七村に遠征。
永保三年(1083) ①夏頃:鎮守府將軍清原真衡が後継者として海道小太郎成衡を養子とする。②夏頃:吉彦秀武、清原真衡に反抗し、清原清衡・家衡を仲間に引き入れる。真衡出羽に出兵する。**(後三年合戦始まる。)**
③秋頃:清原清衡・家衡が清原真衡の館を襲撃。④秋頃:源義家が陸奥守として赴任。⑤この頃:清原真衡が急死したため、源義家が奥六郡を清原清衡・家衡に分け与える。
応徳三年(1086) ①奥六郡分与に対し、清原家衡が不満を持ち、兄清衡を殺害しようとする。②清衡が陸奥守源義家に家衡の粗暴を訴える。③源義家が清原家衡の沼柵を攻めるが、飢えと寒さで退却する。
寛治元年(1087) ①清原武衡が家衡に加勢し、金沢柵に移る。②9月:金沢柵において清原武衡・家衡らと源義家・清原清衡・吉彦秀武らの戦いが始まる。③家衡の乳母の子千任が源義家を罵倒。④源義家が吉彦秀武の提案により兵糧攻めを行う。⑤11月14日:金沢柵が陥落する。⑥清原武衡が斬首され、家衡は射殺される。**(後三年合戦が終わる。)**
寛治二年(1088) 源義家、私戦とみなされ陸奥守を解任される。
長治二年(1105) ①2月:清衡、中尊寺一山の造営に着手。②この年以前、豊田館より平泉に本拠を移す。



↑小吉山(中央)と大鳥井山の一部(右下)

大鳥井山(中央)と横手川(右下)→